

法面点検（目視点検）を支援する技術

【要件：求める技術】

道路法面において、崩壊等の恐れがある危険箇所の抽出に際しスクリーニング等を効率的に行う技術

【現状】

地方公共団体の道路の管理延長は数千キロにおよび、道路法面の数は膨大なものになっている。

これらの法面すべてを目視点検することは、著しく困難である。

従って、崩壊の恐れがある危険箇所を事前に抽出し、当該法面を優先的に目視点検する必要性が生じている。

法面点検（目視点検）を支援する技術

【課題】

フォーラムでの討議の結果、事前の机上の調査のみでは危険箇所の抽出（スクリーニング）は困難であること。

スクリーニングには、座標（3Dを活用）を特定した当該法面の目視点検データの積み重ねが必要。

また、目視点検時にはレーザー技術などを活用した詳細な地形図が必要等の議論がなされた。

そこで、スクリーニング技術や目視点検時を支援する技術など幅広い技術提案を求める。

道路防災対策の状況について

- ・ 奈良県の道路管理延長は約2,000km。
- ・ 奈良県南部地域では急な法面に隣接した道が多く、豪雨等による崩土で急な通行止めが発生。
- ・ また、南部地域は、う回路や代替道路が少なく、通行止めにより地域住民に重大な影響がある。
- ・ 法面の危険箇所は、点検業務を発注し、防災カルテに情報を取りまとめている。

<発注規模>

H29 L=368km、C=310百万円（五條、吉野）

H30 L=467km、C=310百万円（奈良県全域）（予定）

・ 点検方法

第1次絞り込み（過年度成果の整理）

第2次絞り込み（机上調査と現地確認）

最終とりまとめ（安定度調査と防災カルテ作成、防災マップ作成）



国道169号（上北山村白川）

・ H29年7月崩落

・ 防災カルテでは予想災害は落石

課題1（点検段階）

- ・ 法面点検方法の効率化。
- ・ 危険斜面選定の精度向上。

課題2（点検後）

- ・ 防災カルテの有効活用。
- ・ 点検後の斜面監視方法。
- ・ 法面崩壊の予測方法。

新技術に求めること

- ・ 法面点検と同等以上のレベルの点検を早く、（できれば安く）行う提案。
- ・ 点検精度を向上できる提案。
- ・ 点検後の斜面の監視や崩壊の予測方法の提案。